

吾々はかかる事を考慮し、即時部落に新幹部を養成せねばならぬ。之して暴圧によつて幹部が奪はれた場合は、即時新幹部を以て指導部を再建し斗争を続けねばならぬ。

### 実行方法

カンパや斗争の場合には必ず斗争委員会を組織し、この中々実際に斗争の指導にあたりせ、訓練すること。平常も組織調査通信等の仕事を受けてもたせ責任持つて仕事をさせること。研究会、読書会、講習会等によつて、理論的教育を行ふこと。

## 労働者との提携の件

(北九州地区提出)

農民と労働者との提携の必要性については、今更説明するまでもなく皆に解りきつてゐる事だ。特に都市に接近せる吾等は痛切に之れを感じてゐるのだ。何故か行つれば、市街地の拡張による区劃整理に際し、資本家地主のために作られた整理法案によつて、農民の土地が強制的に引き上げられる場合、工事に従事する労働者との提携が不可欠ならぬ。目前の利害関係によつて相反の立場から労働者と農民との同志打が行はれるからだ。

労働者と農民は、共同の敵資本家地主と斗争する時には必ず、下からの大衆的共同斗争委員会をもつて身をよぎせねばならぬ。そのためには農民が斗争を開始せる場合は、簡単に指導部に結合を求めればかりでなく、大衆の中へヒラキテ、労働者を広く持ち込み、演説会その他の大衆的集合工場に向つて、デモを行

いアゲテマロシ一人でも多くの労働者を五七々の味方としなければならぬ。又労働者が力にキせる場合は農民として又農民組合としてその代表者を予選固へ送りこみ、単談基金、タギ出し、動員等出来る限りの援助と支持を忘れずに行ひぬ。

原則的には労働者によつて吾々農民は指導される可きであり指導されぬのである。時として工場、鉱山の組織を余す処なく破壊する。かゝる時には労働者の組織援助も亦吾々の任務の一つである。無産階級の共同敵資本家地主打倒の斗争は、全口労働者農民がガツチリと團結した時に吾々の勝利となるのだ。

## 右翼農民組合に対する件

(北九州地区提出)

日本農民組合の情勢

日本農民組合幹部の指導が徹頭徹尾地主擁護のためであることは復讐の行動がこれを証明する。その一例として六年度九州聯合大会に於ける秋季斗争方針の決定に、今年年の減免斗争は各支部を勝手にやらせ、又個人でやつてもよいと自由行動を求め、團結を乱して斗争力を弱めてゐる。又日農の組合員には、永い間幹部の独裁的指導によつて、幹部一任主義が深くなり、また、幹部に対する依拠心が非常に強く、そのために一切の問題を幹部任せし、大衆行動の威力を知らず、小作米減免の如きも幹部の一言で、不生アソウ承諾とねる有様だ。而し恐怖の乗化と加へて